

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2020-1029	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:全ゲノム情報あるいはアレイ解析情報があるコホート参加者 の中で、脳神経疾患・がんの既往のない60歳代、70歳代、80歳代 男女各5人 合計30人 試料:末梢血単核球、血漿(500~700 μ l) 情報:試料に紐づく基本情報、調査票情報(既往歴、食品摂取や 服薬状況および認知症発症に関係する質問項目を含む)、検体検 査情報(血液検査、生理検査)、ゲノム情報
主たる研究機関	京都大学iPS細胞研究所			分担 研究機関	東北メディカル・メガバンク機構
研究題目	認知症の細胞・遺伝子研究			研究期間	2021年3月~2022年3月
実施責任者	井上 治久	所属	京都大学iPS細胞研究所		職位 教授
研究目的と意義	京都大学iPS細胞研究所(京大CiRA)においてすでに整備済みの認知症の方のiPS細胞と、東北メディカル・ メガバンク計画(TMM)に参加する高齢者のiPS細胞について比較解析を行い、認知症に寄与する細胞・分子病 態を明らかにする。				
研究計画概要	TMMバイオバンクの末梢血単核球を利用して60歳以上の健常者30名分のiPS細胞を作製し、京大CiRAがこれまでに 作製した各種神経疾患iPS細胞、健常者iPS細胞と合わせて、iPS細胞もしくはiPS細胞から分化した細胞のオミクス解 析、遺伝子解析を行う。また、見出された病態について、提供者の末梢血単核球、血漿を使って、神経疾患の遺伝子発 現やオミクス解析、形態学的解析を行い、治療法の発見、開発、診断方法の改善、治療薬有効群の同定に繋げる。 東北メディカル・メガバンク機構は試料・情報を提供し、京大CiRAがiPS細胞の作製・解析、遺伝子解析を行う。				
期待される成果	本研究では、神経疾患に寄与する細胞・分子病態の解明を目指し、明らかになった病態から治療法の発見、開発、診 断方法の改善、治療薬有効群の同定に繋げる。また、作製されたiPS細胞はTMMバイオバンク試料に加わる予定であ り、バイオバンク細胞試料の研究利用に対する貢献が大きい。京大CiRA-理化学研究所バイオリソース研究センター (BRC)等を介して、他の研究者も利用可能とする予定である。				
これまでの倫理 審査等の経過	2021年3月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認				
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	研究に利用する試料・情報の取扱いについては、倫理指針を遵守するほか、共同研究契約で定める。 必要な解析は東北メディカル・メガバンク機構スーパーコンピューター上で分析を行い、スーパーコンピューターからは 持ち出さない。				
その他特記事項	京都大学運営費交付金、東北メディカル・メガバンク事業				
* 公開日	令和3年3月25日				